

アルナシームの引退に寄せて⑤

連勝の勢いを駆って臨んだ 2022 年 11 月の東京・秋色ステークス。当日のメインレースはクラシックの登竜門とも呼ばれる東京スポーツ杯 2 歳ステークスということもあり、秋色 S もメンバー構成がかなり揃うだろうという前評判で、実際に強豪揃いの一戦となりましたが、それでも 1 番人気の支持を集めました。長距離輸送を経ながらも、+ 8 kg と上々の気配でしたし、3 連勝の期待もかかりましたが、直線で本来の末脚を披露することができず、6 着に敗れました。「スムーズに運べましたが、これからというときに伸びなかったですね。強いて言えば左回りなのか…」と福永騎手も首を傾げるレース内容でした。前年同週の雪辱も晴らしたいところでしたが、この週は鬼門なのかと、この年も肩を落として京王線に揺られたことをよく覚えています。



リフレッシュ放牧に出ると、ほどなくして新規調教師免許試験の合格者発表があり、その中には、福永騎手の名前もありました。「祐一は頭も良いし、一発で合格するだろう」(某調教師) というように、受験すること自体は聞いていましたし、私も合格を願っていたひとりでもあります。しかし、ひとりの競馬ファンとして、そして、競馬界に身を置いて働くひとりとして、『騎手・福永祐一』が見られなくなってしまうのも非常に残念ですし、アルナシームの主戦をどうするのかという問題もありました。お祝いのメールを送った際に、電話をいただき、自然とアルナシームの話に。「来年の主戦はどうすればいいんですか」と冗談っぽく尋ねると、「知らん(笑)。今のアルナシームなら誰が乗っても大丈夫です。それに、●さん(筆者)ならあの馬にどういう騎手を乗せたらいいかわかるでしょう?。でも、もう少し乗りたかったなあ。これからまだ良くなる馬ですしね」と返してくれたことを思い出します。将来的には調教師としての活躍も楽しみにしていましたし、落馬負傷により、腎臓摘出の手術を受けるなど、大ケガをした経験が何度もありました。この吉報には天才ジョッキーと言われたお父様もお喜びになられたことと思います。

年明けのレースを探るなかで、適鞍で福永騎手が乗れる番組がなかなかないということが判明します。我々もそうでしたが、「もう一度なんとかうちの馬に乗ってほしい」という陣営や馬主さんも多かったでしょうし、誰もが認めるスタージョッキーですので、仕方ありません。非常に残念ながら、福永騎手とのコンビは前走が最後ということになってしまいました。もう一度だけこのコンビを見たかったというのが偽らざる本音ですが、この馬を通していろいろなお話をることができましたし、大人気の福永厩舎に預託を受けてもらえたのも、アルナシームのおかげだと感謝しています。

次走は2023年2月の武庫川ステークス（芝1600m）に決定。騎乗経験のある武豊騎手や池添騎手が騎乗できないため、調教にもよく乗ってくれていた鮫島克駿騎手で臨むことになりました。以前から、素質を高く評価してくれているということを聞いていましたので、どう力を引き出してくれるのか、テン乗りながらも期待感が大きかったです。レースは大外枠ということもあり、後方からの競馬に。しかし、見せ場をつくることができず、初めての2桁着順となってしまい、1番人気に応えることができませんでした。このレースは当時の馬場状態や展開の影響で、前に行くか内を立ち回った馬が上位を占めており、結果的に大外枠がこたえた格好です。



レース内容に加え、橋口先生や関係者の意見を総合し、距離短縮することになり、次走は4月の阪神・芝1400m戦に出走することになりました。鞍上はクラブの馬を多く勝たせてくれている坂井瑠星騎手です。新たな条件で良さが出ることを期待しましたが、「この距離は明らかに忙しいです。最後は力だけで伸びてきました。能力は高いので、距離を延ばせば巻き返せると思います」と、ジョッキーがコメントしたように、今のアルナシームには短かったようです。そこで、ジョッキーの感触を受けて協議した結果、芝1800mに距離延長することになりました。1番人気を裏切り続けているだけに、次走は何としても巻き返したいところです。



次回に続く